

「花尾小学校の岩戸^{ほうそう おど}疱瘡踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計20名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年11月12・16・21・24・30日，12月7日

総合的な学習の時間 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和4年12月9日 花尾っ子フェスタ 本校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「岩戸疱瘡踊り（いわどほうそうおどり）」

(2) 由来

藩政時代から踊り継がれてきた古い踊りであるといわれている。昔，恐ろしい伝染病である天然痘が蔓延したことがあり，その予防と早い治癒を願って踊るもので，真剣な祈りの心が込められた優雅な踊りである。天然痘が絶滅し，踊りも一時途絶えていたが，終戦後に復活した。平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

(3) 構成等

先踊り，シベ踊り，後踊りで構成。先踊りは，手踊り12名くらいに太鼓打ちと太鼓持ちが4組ほどで，三味線に合わせて踊り，手踊りの中に傘踊りも入る。

シベ踊りは，黒装束の大シベ持ちの3名を先頭に豆絞りの手ぬぐいを被った踊り子がつく。踊り子は小シベを持ち，横三列でシベ踊りをする。シベを配ったり，集めたりするのはひょっとこ面を被ったさっきよんである。

後踊りは，踊り子が円になって踊り，大シベ持ちは円の中に入る。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に，花尾地域固有のよさに気付き，伝承していくことの大切さを自分事として受け止め，よりよい解決を目指して行動する一連の探究活動の過程に，踊りの練習（体験活動）を位置付けた。講師は岩戸自治会の疱瘡踊り保存会にお願いし，今年度は3回指導をしていただいた。子供たちは発表前には，昼休み時間を活用し自主的に練習した。踊りに必要な用具（傘や太鼓，箆）は，保存会から借用している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら岩戸疱瘡踊りを継承していくために、3年生から6年生まで4年間学ぶ。保存会の方から学んだ踊りや太鼓打ちを4年間実践することで、高学年が新しく学ぶ3年生に指導することができるようになる。講師の指導だけではなく、児童が相互に踊りを教え伝えていくことも学校のよい伝統となってきた。

平成27年度までは、3年生以上の女子が踊りだけを披露していたが、本来の形である太鼓踊りも復活させたいという地域の願いから、平成28年度から3年生以上の男子が太鼓踊りを担当した。今年度は総合的な学習の時間等の成果を発表する「花尾っ子フェスタ」で保護者および地域の方々の前で披露することができた。

7 取組の実際



【11月16日 地域の方に教わり練習】



【12月9日 花尾っ子フェスタで疱瘡踊りを披露する子供たち】

8 参加児童・保存会・教職員の感想・意見

- 来年もまた踊って、「私たちがこの踊りを受け継いでいかなければ。」と感じた。【5年生児童】
- 地域の人たちが「大丈夫。できるよ。」と励ましてくれるのがうれしかった。【3年生児童】
- 地域の方々と触れ合えることや異学年で交流できること、何百年も受け継がれてきた伝統を花尾の子供たちは身近に感じられる環境にいることが素晴らしいと思う。【教職員】
- 細かいところまで指導したが、子供たちがどんどん吸収してくれるのでうれしかった。【保存会】